

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4590100212 | | |
| 法人名 | 有限会社 美大 | | |
| 事業所名 | グループホーム大河 | | |
| 所在地 | 宮崎市古城町長田5911番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年9月29日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年12月5日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100212&SCD=320&PCD=45 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年10月18日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境は、人々の心を豊かにし、優しく包んでくれます。私達は、そんな自然の恵みに感謝し、介護の仕事に日々勤しんでいます。
 1、入居者様が、毎日を楽しく穏やかに生活していただける事は、私達の務めであり、喜びです。
 2、太陽光発電を設置し、自然への配慮と、災害時の電源確保に備えています。
 3、はにかむ春の緑、深い深い夏の緑、黄や赤とたわむれる秋の緑、冬の緑はひなたぼっこ、そんな幼いころと同じたたくまいが、ホームの目の前にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、四方に山川や田園風景が広がる小集落の中に自然に溶け込んでいる。代表者、管理者、職員は、利用者の人格を尊重し、快適な生活が送れるように発信されているサインを確実に受信し、その場その場で誠実に対応している。利用者の生活の質を保つため、音楽療法の導入やアイデア・工夫を実践に移して、自立的な生活を支援している。「悔いのない介護をしたい」という職員の思いが利用者や家族の心の奥底でつながり、家族の熱心な協力を得て、地域の中で昔の懐かしい思い出がよみがえったような生活を維持している。代表者の理解の下、職員は日々研さんし、職務を通じて新たな可能性を切り開き、自己啓発に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎月の職員会議には運営者も出席し、管理者、職員と意見を交わし、理念に則ったサービスが提供できているか、確認し実践している。 | 代表者・管理者が、効果的な方法で資質向上を図るために、新任教育時から研修内容の充実と継続的に倫理・知識・技術を高めていく研修体系を確立しているため、理念は日々の職員の努力で効果的に実践されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 古城保育園との交流や古城小学校児童との登下校時のあいさつや見送り等でつながりをつくっている。又、毎月、医療機関系列のグループホームとの交流も行っている。 | 地域の一員として地域の行事、市の一斉清掃、知り合いの自宅でカラオケ等に参加したり、日ごろから買い物、散歩時にあいさつを交わしたり話をするなど、積極的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 毎年、中学生の福祉体験実習を受け入れている。地域の老人クラブや民生委員にホーム内を見て頂き、認知症の方への理解や接し方について伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 日頃から入居者の方の状況や行事について、管理者より報告を行っている。又、入居者様の状態について面会時に報告、相談を行い、要望等があった場合は、経営者、職員と話し合い、取り入れるようにしている。 | 運営推進会議は2か月に1回開催され、検討、勘案事項についてその経過を詳細に報告し、会議録をとっている。会議は双方向で行われるので、出席者の理解と協力を得られ、有意義な会議になっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市が行う研修については、積極的に参加し、介護保険の動向、市の方針を踏まえ、ホームでの実情と照らして、意見交換や協力の構築に努めている。 | 運営や介護保険の手続きの相談、地域への働きかけ等を検討する際には、積極的に行政に相談し、サービスの質の向上に取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員会議で何度も研修を行っており、してはならないものと認識している。玄関や門入口は7時～19時まで施錠していない。 | 安全面も考慮し、職員体制が2人以上になる午前7時から午後7時の時間は施錠をしていない。利用者一人ひとりの誘導の仕方や寄り添ったケアを共有し、利用者の人権と尊厳を守るケアを実践している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修等で学んだ虐待の事例を職員会議で取り上げ、注意喚起し、ホームの実態を家族会にも報告している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員会議内で学び、個々について考えると共に、ご家族の皆様にも家族会で後見制度について説明し、家族から相談があれば支援できる体制を整えている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前に文書や口頭で説明をし、質問や疑問についてはご理解いただくまで意見交換し、納得された上で契約している。改定は家族会に諮り、同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族等が目につき易い場所に、意見や要望を寄せる為の意見箱を置くと共に、民生委員、区長等の電話番号を掲示している。家族会、運営推進会議でも発言を促し、意見は運営に活かしている。意見要望は個人的なものはケアプランに生かし、全体的なものは職員会議等で全職員に知らせている。 | 家族だけの会が開催され、運営推進委員会にも多数の家族の参加がある。代表者等が利用者や家族の声を運営に反映していることで、家族の我が家(ホーム)を守る気持ちが強く、協力的である。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員には改善への提案を常時募り、職員の意見には真摯に耳を傾け、職員のモチベーションを高め、結果的にホームの進化を図っていく。 | 職員から「誰も辞める人がおらず、代表者、管理者は常に職員に話しかけてくれる。創造的なアイデアは表彰されるので、活力ある職場になっている」と自信に満ちた答えが得られている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎月の目標を個人で掲げ、ボードに貼り出し、各自が向上心を持って働いている。各自のキャリアアップには、代表者も手当で努力に報いている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の経歴や実績に応じて、各種研修に積極的に参加させている。経験豊かな管理者によるOJTも機会をとらえて行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 開設当時から、医療機関系列のグループホームと毎月交流している。長所は積極的に採り入れ、常に質の向上を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 会話をしている時間を多く設けることで信頼関係を築き、その会話の中から本人の希望や不安を聞き入れ、解消につなげている。他の入居者様との良好な関係構築にも努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約時に今までの生活状況や困っていた事、不安に思っている事等を聞くようにしている。面会時には日頃の状態を伝え、安心していただけるようサポートしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居者様の状態をよく観察し、必要なサービスを本人、御家族と協議した上で訪問看護、訪問マッサージ、歯科や病院からの往診を取り入れ、安心してホームでの生活が送れるよう支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者様の得意とする料理や縫い物、絵など把握し、職員はアドバイスを受けながら助け合って生活している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者様の誕生日には、御家族にも参加をお願いしている。御家族も支援者として情報を共有し、入居者様を支えている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 昼夜を問わず面会は自由である。家族や友人が帰られる際は、次回も気持ち良く訪問していただけるよう、心配りをしている。行きたい所や、会いたい人の希望は家族に伝え、ご希望にそえるよう、家族とホームで協力し対応している。 | 地域の行事や地域訪問等も家族と相談し、また課題分析で情報等を把握して、これまでの大切な関係を維持・継続しながら利用者の暮らしを支えている。おもてなしの心が家族等との絆を深め、次の来訪につながっている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 疑似家族としての、入居者様間の良い関係の構築に努めている。相性を考慮しながらも、孤立されないよう細心の注意を払い、ホーム内の融和を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所の際には、本人の状況、習慣を詳しく伝え、新しく移り住む場所に早く馴染めるように相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 各自の個性、価値感、生活リズムを把握し、本人の思いを最優先に叶えるようにしている。意思表示ができない時、人に関しては表情等を読み取り、サポートしている。 | 利用者に寄り添ったケアの中での会話等も参考に、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)の一部を使い、利用者の心身の情報を記入、希望や意向を把握して介護計画に生かしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前の自宅や施設からできるだけ多くの情報を集め、分からない事は御本人や御家族から情報を収集し、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 入居者様の好む一日の流れ、起床、食事時間、就床は様々であるため、その方の生活リズムをくずすことなくサポートしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者ごとに担当を決め、毎日の記録や気づきの中からカンファレンスを行い、家族のご意見を汲んだケアプランを作成している。 | 課題分析を利用者や家族、職員間で話し合うことで、利用者や家族の気持ちに沿ったケアが実践できている。記録と介護計画も連動し、評価したことを次の計画に反映できている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の記録用紙に日々の様子や気づき、工夫等を詳しく記入し、全職員が引き継ぎや出勤時に確認している。その情報を基に実践や計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 経験豊富な看護師やケアマネ、介護スタッフが徹底した検討を行い、良いと思った事はマニュアルに捉われず実施している。毎月、音楽療法も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の保育園の夏祭りや卒園式に参加したり、学童保育の小学生との交流もあり、園児と過ごされている時の表情はとても良い。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診時には文書で状態報告を行い、適切な医療が受けられるようにしている。定期的な往診もあり、急変時の対応や連絡等密にとれている。 | 本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、職員が代行することもある。急変時の対応については、安心して医療が受けられる体制が整っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職員は、入居者様の状態を細かく観察し、いつもと状態が違と思った時は、職場内看護師に24時間連絡がとれ、的確に対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 日頃の本人の状態を詳しく書面で伝えている。入院されても医師と相談し、できるだけ早期の退院をお願いし、退院後の注意点やアドバイスを受けるなど、連携は密にしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りを含めた終末期対応は、本人や家族と協議し、24時間体制の訪問看護や家政婦等の関係者に応援を得て、サポートしている。当ホームで3人を看取った実績がある。 | 利用開始時に重度化や終末期対応方針については同意を得ている。日ごろから医療機関と連携を図り、また、安心して納得した終末期の対応ができるように随時、意思を確認し、状態の変化が見られた時には責任を持って、同意を得るようにしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 消防署の救命講習も全職員が受講し、職場内看護師のアドバイスもあり、職員は実践力をつけている。AEDを設置し、初動体制も築いている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月、防火管理者の計画の下、避難訓練を行っている。最悪の場合を想定し、夜間一人体制での訓練もしている。年2回、消防署や消防団の協力を得て、避難訓練を行っている。隣の田の所有者が、消防ホースを用意し、高水圧のかんがい用水から、消火作業をしていただく提携も結んでいる。 | 災害に備えて、防災ずきんとホイッスルが用意しており、笛を吹く練習も行っている。家族会の時に避難訓練を行ったり、被災期間の長期化に伴う受け入れ病院も確保されている。避難訓練には、近隣の住民の参加や協力が得られている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉づかいや態度には十分に気をつかい、尊厳やプライドを傷付けないよう努めている。特に排泄時は羞恥心に配慮し対応している。 | 全職員が理念を共有し、外部から講師を招き接遇や対人援助の研修をする等し、利用者の人格を尊重したケアを行い、常に丁寧な言葉かけや責任ある業務遂行を行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者様の希望をお尋ねし、できるだけその思いに添う介護を行っている。各人のペースに合わせ、表情から希望を読み取り、思いに添えるように対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その人、その人の思いを取り込んだレクリエーションを行っている。 入居者様から「何か手伝おうか」と声を掛けて下さり、お互い支えあいながら日々の生活を送っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理美容は、出張の業者に依頼したり、職員がカットや白髪染めを行ったり、希望を尊重してサポートしている。おしゃれは、その人のこだわりを大切に思いをかなえている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者様から声を掛けて頂き、盛り付けや味見、配膳、食器洗いと職員と入居者様が一緒になって楽しく食事をしている。 | 楽しむ食事は利用者の自立的な生活を送るための手助けとしてとらえ、無農薬野菜作りから収穫、調理、食事に至るまで利用者と共に職員も楽しんで支援している。時々リクエストメニューにして、利用者から喜ばれている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量は個々のチェック表を作り、職員間で把握している。摂取量の少ない方は、御家族に相談し、本人の好む物を持ってきていただいたり、医療機関から高カロリー食を介してもらおう等工夫している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアの声掛け、誘導を行っている。手が思うように動かない方もいらっしゃるの、職員の介助により丁寧なケアを心がけている。又、歯科訪問も毎月あるため、分からない点や難しい点は積極的に聞くようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の間隔、排泄量を細かく記録し、本人のパターンやその日の体調を考慮して、トイレへの誘導や、自立への支援を絶えず行っている。 | 利用者の生活リズムに沿った排せつ支援を行っている。おむつからリハビリパンツに変わった利用者もいる。リハビリパンツの利用者は若干名である。 | 日々の職員の向上心や努力があるので、今後は排せつパターン・排尿間隔やサインのつかみ方、適確な記録等を職員間で連携しながら、具体的な排せつ管理対策に取り組んでほしい。 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防に毎日のヨーグルト摂取や牛乳を提供している。料理の中に芋類や野菜、食物繊維の多い物を加える等している。また、体操や散歩等、個々のレベルに合わせて行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | その人の習慣や当日の心身の状況を考えて柔軟に対応している。希望に応じて介助の職員が交代し、風呂場での会話を楽しんでいる。 | 利用者一人ひとりの入浴支援を行っている。希望があれば柔軟に対応し、いつでも入浴が楽しめる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は運動や散歩、レクリエーション等により体を動かし、心配ごとや不安がある方には側に寄り添い、話を傾聴し、安心して眠りにつけるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤情報を各個人でファイルしており、全職員が目を通すようにしている。薬の副作用が起こった場合は、看護師や医師に報告・相談し、変更や調整を行い、引継ぎノートに記録している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 以前はこちらから入居者様に調理の手伝い、洗濯物たたみ等をお願いしていたが、今では入居者様自ら食器洗いや、洗濯物をたたんで下さったりと、役割や楽しみ事の一つになっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 御本人の希望を家族へお伝えし、ショッピングや墓参り、温泉に行く等、御家族やボランティアの協力を得ながら実践に努めている。車の通行の少ない道で散歩を楽しんでもらっている。自然豊かな中で体を動かし、生きている幸せを感じていただいている。 | ホーム周りの散歩や家族の来訪時にも散歩を楽しんでいる。また、車いすや車を利用して、歩行困難な利用者も戸外に出られるように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理ができる方は、お小遣いをもっている。一人ひとりの力量に応じお金を所持したり、買い物に行ったりして頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人からの申し出があれば、ご家族や友人に電話できるようサポートしている。また、手紙の代筆を手伝ったり、ポストへの投函を行っており、人によっては週2通程の手紙が来る人もおられる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居心地良い空間と安全な空間、清潔な空間をつくろうと全職員で当たっている。 1、適当な灯り(明るさ) 2、清潔な場所作り 3、季節感あふれる場所 4、さわやかな場所 このような場所作りに努めている。 | リビングには、職員の顔写真入りの月ごとの目標コメントや季節の花が飾られ、利用者職員で作った古布利用の Patchwork 等がソファや壁に飾ってあり、昔がしのばれる。また、バックミュージックも適度の音量で居心地よく、窓からの風景は季節を映し出している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 皆で楽しくできる場所もあるが、一人で落ち着きたい場所作りも行っている。居室、ベランダの椅子等、一人でゆっくりできる場所も確保している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 出来るだけ自宅におられた頃使っていた家具や仏壇等をご家族へお願いし、持ってきていただいている。また、入居者様の描かれた油絵や貼り絵を廊下に飾っている。 | 利用者一人ひとりの自分が使っていた持ち物が居室に置いてあり、思い出深く、安心感あふれる、居心地よい居室作りがなされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物の内外はバリアフリーで、廊下に手すりも設置し、各自の部屋、トイレや洗面所の場所も大きな字で掲示している。車椅子や杖での歩行も安全にできることから、職員は見守りを怠らず、可能な限り本人だけで行動していただくようにしている。 | | |